



OVERSEAS

Kingdom of Tonga

— トンガ王国 —

海外事情



ゆったりした文化のトンガ王国



山川 正雄 YAMAKAWA Masao
八千代エンジニアリング株式会社 / 国際事業本部 / 電力・プラント部

トンガ王国とは

トンガは南太平洋に位置する176の島々から構成される、人口約10万人の王国である。人口の約7割の人々が暮らすトンガタブ島に首都ヌクロアファがある。他にハアパイ島、ババウ島、ニウア島といった島々に、それぞれ1,000～10,000人が暮らす。

歴史としては、1845年にトゥポウ1世がトンガを統一し、現在のトゥポウ6世まで同一の王朝が続く。1900年には英国の保護領となったが、1970年に英国より独立した。

ポリネシア系の民族でトンガ語と英語を話す。交流が盛んなニュージーランドへの留学生が多い。近年、ニュージーランド人との混血の人々も見られる。

休日

休日、町は閑散とする。それはキリスト教徒が国民の大部分を占めるため、人々が教会に集いお祈りを捧げるためである。その後、家に帰ってゆっくりと過ごす。トンガでは日曜が安息日として休むことが定められており、ゴルフ等をするのもよくないとされる。

家でゆっくりと過ごしているとエアコンも必要ないため、日曜日は電力需要が極端に下がる。特に過ごしやすい冬場の週末は、最も多い夏場の平日に比べて6割程度の電力需要となる。

発電変動が激しい太陽光発電を含むマイクログリッドシステムのプロジェクトを実施した際には、発電に占める太陽光発電の比率が高くなることから、休日の電力需要には注

意して検討を行った。日本でも休日の電力需要は平日に比べて低くなるが、これほど大きな差があるのは自然のままに休日をゆっくり過ごす、トンガならではのといえると思う。

トンガでは日差しが強く、太陽光発電モジュールからは標準の設計容量以上の電力を得ることができる。



写真1 トンガの青い空

気候

年間を通して温暖な気候であるが、雨季にはサイクロンの通り道となる。気象局にはサイクロンで飛ばされたと言われる大きな岩の写真が飾られている。ちなみに、休みを大切にするトンガにおいても、気象局は年中無休の24時間交代制である。

気象局があるファモツ国際空港の2011年の月別平均気温は、最も低い7月が21.0℃、最も高い2月が26.4℃、年間平均気温は23.7℃と年間を通じて大きな変動はない。各月の最高気温は夏の12月が31.5℃、冬の7月が28.4℃、年間平均最高気温は30.3℃とこちらも大きな変動はない。最低気温は9月が11.0℃、11月が20.6℃となっている。最高気温と最低気温の差は9月が20.1℃で最も大きく、昼間は暑く夜は少し肌寒くなる。基本的には半袖で快適に過ごすことができ、少し肌寒い時間帯には上着を羽織ればよい。

自然

首都のあるトンガタブ島は珊瑚礁が隆起してできた島であり、土地がとても肥えているため植物がよく



写真2 休日の教会

育つ。マイクログリッドシステムのプロジェクトの太陽光発電エリアでも、どこから飛んできたのか、いつの間にかスイカが実っていた。土地が肥沃であることは農耕にとってはよい反面、太陽光発電設備では、あつという間に植物が生い茂り、発電パネルが日陰になってしまうという問題がある。

対策は地面を砂利で覆うことである。ポプア発電所では太陽光発

電設備の周りでヤギを放し飼いにしている。次々と生えてくる草をヤギに食べさせるのだ。草を食べるヤギの数も、現地調査の回数を重ねるごとに増えていった。

トンガタブ島ではマングローブも育つ。ラグーン周りの一部はマングローブ林となっており、保護の対象となっている。

7～10月にかけては、ザトウクジ



写真3 太陽光発電設備の脇に育ったスイカ



写真4 発電所のヤギたち



写真5 ホエールスイミング



写真6 手付かずの浜辺

ラが出産と子育てのための温暖な海を求めて、トンガ周辺に現れる。そのため、ホエールウォッチングを楽しむことができる。クジラと一緒に泳ぐホエールスイミングもできるため、数少ない魅力的なダイビングスポットとして海外からもダイバーたちが集う。

トンガタブ島では人の手が入っていない浜辺がまだまだ残っている。島の周りがある林を抜ければ自然の浜があり、休日には地元民が海辺での団欒や海水浴を楽しむ。

産業

主要産業は、やし油やカボチャを生産する農業と漁業である。主な輸出品目はカボチャ、魚類、バナナ等であり、主な輸入品目は食料、飲料、家畜、機械や機器、燃料、石油製品である。

トンガでは元来カボチャを食べる習慣がなかった。しかし、気候がカボチャ栽培に適しているうえ、冬至など日本で需要の多い12月に収穫シーズンとなるため、1990年代に日本の商社が持ち込んだ。現在、カボチャはトンガ経済の柱となっており、対日貿易黒字のほとんどをカボチャ輸出が占めている。

一方でカボチャ栽培が成功し過ぎたため、モノカルチャー経済化が懸念されている。トンガ政府は新しい輸出商品作物の開発に熱心で、カボチャに次ぐ産品開発に向けた市場調査や相手国への輸出手続きに関する調査を積極的に行っており、品質管理にも力を入れている。

土地

トンガの土地制度の最大の特徴は、土地法の冒頭で「王国のすべての土地は国王の所有である」と宣言されていることである。土地・環境・気候変動・自然資源省の大臣が国王の代理人として、王国の土地管理を行っている。

二通りの土地所有の形態があり、一つは国王の直轄地で、この中には王室の領地と王族の領地に加え、道路や墓地などの公共用地も含まれる。もう一つはTofiaと呼ばれる地所であり、土地法に記載された貴族に対して世襲の権利とともに与えられた土地である。土地法では土地の売買が認められていないため、一般の国民は99年間以内という条件のもと、王室や王族、あるいは貴族から借地する。

マイクログリッドシステム導入計

画の太陽光発電設備の用地も、土地・環境・気候変動・自然資源省大臣でもある貴族のマアフ卿から、約3.2haの土地を50年の期間で借用している。土地登記のためのリース契約書は、内閣の審議にかけられ、大臣承認が下りて登記簿に記載された。

治安

トンガの治安は落ち着いている。暗くなるまで外で遊び、夕食を親戚の家で食べてから家に帰ることも珍しくないという。しかし、近年若者の生活スタイルが変化し、親戚との関わりも少なくなり、軽犯罪が増加しているようだ。

トンガの文化を引合いに出し「トンガでは日曜日のフライトはなく、島から逃げ出すことはできないので、刑務所も日曜日はお休みする」という冗談も聞かれる。

ラグビー

かつて海を渡ってこの地にやって来たといわれる人々の体は逞しい。その体を存分に活かし、夕方にはラグビーに没頭する人々が島のいたるところで見つけられる。ラグビーはトンガの国技であり、大人から子ども



写真7 トンガ人と日本人



写真8 マイクログリッドシステムの太陽光発電設備

まで、日が沈むまでプレーを続けている。日本でプレーしている選手も多く、近年注目されているラグビー日本代表にもトンガ出身の選手が名を連ねている。

先般、日本でたまたま電車に乗り合わせた学生がトンガからのラグビー留学生であった。彼が日本に来たきっかけは、既に日本に留学している先輩がトンガに里帰りした際に、付き添ってきた監督からのスカウトであったという。ラグビーを通じたトンガとのつながりは、今後も益々強くなりそうだ。

人々と犬

トンガの人々は逞しい肉体を持ちながら、その気質は極めておだやかである。現地調査を行っている際にも、協議を繰り返す慌ただしい日々にも関わらず、トンガの人々と話していると、夏休みに田舎に帰ったような錯覚で、穏やかな気分になることがしばしばであった。

一方、犬はアグレッシブである。犬が町中で見られる国では大抵、犬は人を少し怖がる傾向にあるが、トンガの犬は走っている車にも平気で飛びかかってくる。同僚は、散歩していた時に犬に追いかけられたそ

うだ。しばらく走って逃げると追っこんなくなり、ホッとしていたら、今度は別の犬のテリトリーに入り、また犬に追いかけられたという。

ゆったりしたトンガで、唯一張りつめた空気になるのが、犬と目が合った時なのかもしれない。対処法は「石を拾って投げる振りをする」ことである。「ふり」だけでも心は痛むが、実際に試してみると効果てきめんであった。

トンガ人気質

トンガへの渡航は常に仕事での出張であり、そのため、私の知るトンガはほんの一部である。それでもトンガのゆったりとした雰囲気は、常々肌で感じられ、仕事で関わったからこそ見えたこともあったように思う。

ODAのプロジェクトで援助を行うような場合、日本の優れた技術を少しでも伝えようと、日本人の持ち前の勤勉さで業務を行いがちである。しかしながら、太陽光発電設備のヤギしかり、トンガにはトンガのやり方があり、休日には教会に行き家族とともにゆっくり休むといった文化がある。一方的な「押しつけ」を行いかねない危うさには身が引きしま

る思いがした。

「トンガはゆったりした文化」などと書くと、勤勉さとは対極のイメージであるが、仕事に対しては非常に勤勉である。現地調査の際にも、我々の「勤勉」な調査に文句一つ言わずお付き合いいただいた。普段なれない働き方で我々に振り回されたにも関わらず、文化の違いを敬遠するどころか、むしろ「一生懸命やってくれてありがとう。すばらしいね」と言ってくれた時にはその懐の深さに感動した。また、来日され電車に乗っている時には、車窓から配電線を見ては目を輝かせ、その技術を取り入れようとしていた。その一生懸命さに刺激を受けるとともに、とても楽しそうな様子は見えていて気持ちのよいものであった。

昨今、日本でもワークライフバランスが話題になっているが、ゆったりしていて勤勉、そして何より相手のやり方を受け入れて、おだやかに楽しく仕事をするトンガの方々を見習うべきところは多い。その性格は、ゆったりした文化から来るのか、毎日のラグビーから来るのか、はたまた根が優しいのかはわからないが、機会があれば一度、実際にトンガを訪れて感じていただければと思う。